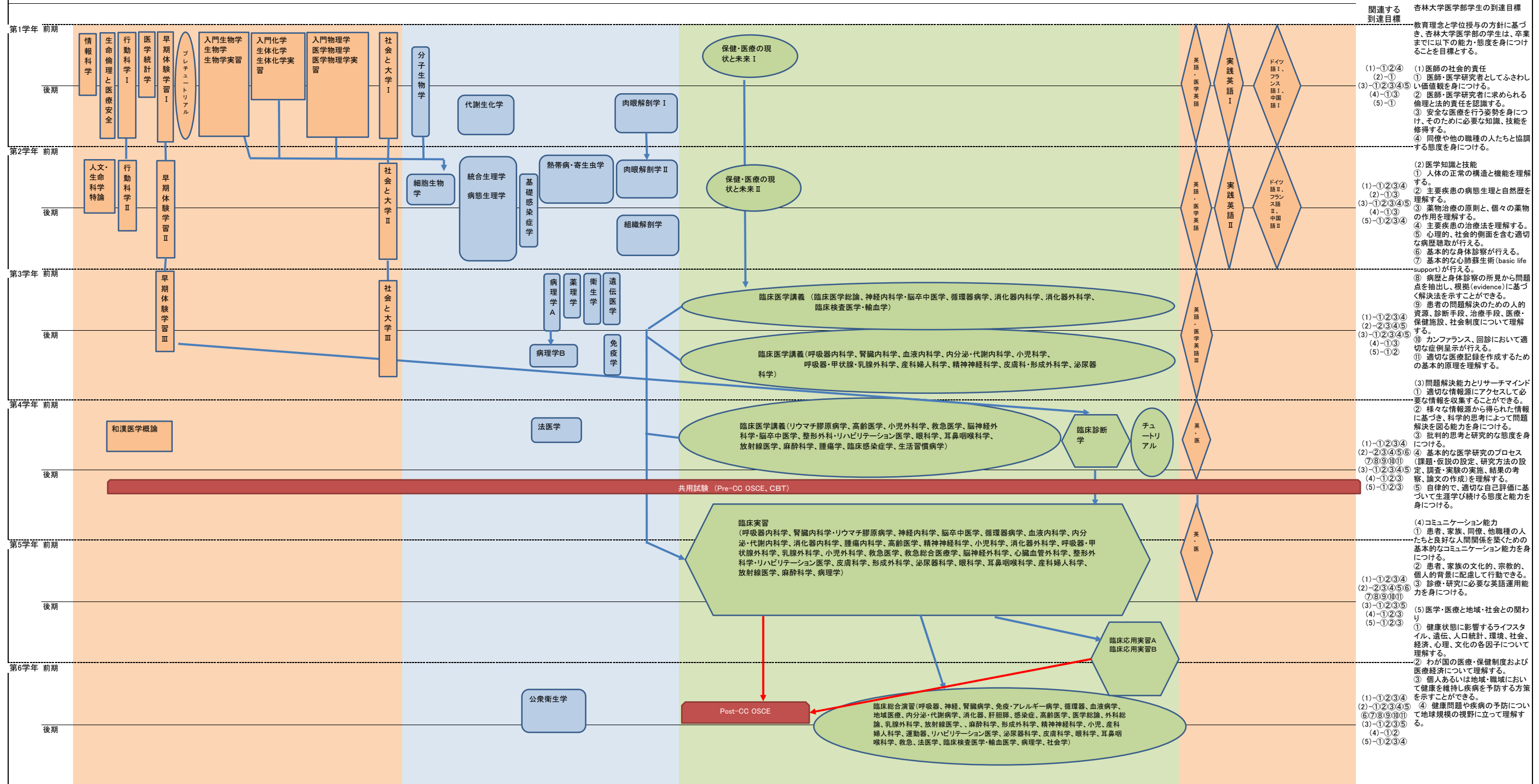


医療と教養 科学と医療		医学の基礎 人体の機能 異常の発生と制御 人体の構造		臨床医学講義 / 臨床実習		医療と教養 外国語	
<p>高校時代に学習した生物や化学などの基礎科学の知識を発展させ、医学物理学、代謝生化学、生体化学、医学統計学など、医学にかかわる科学の基礎知識を学習する。同時に、医師に求められる基本的姿勢および知識を学ぶ。とくに「行動科学Ⅰ(医のプロフェッショナリズムとキャリア形成)」、「生命倫理と医療安全」などの講義や「早期体験学習Ⅰ(OSCE患者体験)」を通じて、社会が医師に求める姿勢・態度、そして患者から期待される医師像や医療のあり方を学習する。</p> <p>また、「保健・医療の現状と未来」や「早期体験学習Ⅰ(病院体験学習)」などを通して、先輩医師と交流しながら、医師のキャリアプランを考える。</p> <p>第1学年「早期体験学習Ⅰ(地域体験学習)」では、我が国における医療システム・福祉システム等の講義とともに、テーマ毎にグループに分かれ、施設見学やインタビュー等、実際に交流し(医学生としての視点から)問題を抽出し、調査・報告を行う。チュートリアル教育は、「与えられた課題からその背後に存在する問題、追求すべき問題点を見出し、必要な情報・資料を検索しつづ、解決に至る道筋を自ら見出す能力を育成する」ことを目的とした教育である。将来、医療の現場で様々な問題に遭遇した際、日々進歩する膨大な医学知識の中から適切な情報を抽出し、これを解決してゆくための方策を学ぶ。新カリキュラムになって、1年生より分子生物学と肉眼解剖学の講義が始まる。人体の構造の理解や生命の根源にせまる分子生物学を学習することは、医学の基本的知識習得の第一歩を踏み出すことになる。英語によるコミュニケーション能力は、医師はもとより、国際化の進んだ現代の社会人には、将来の活躍する世界を広げるために不可欠である。その重要性に鑑み、学生を能力別に30人前後の小グループに分け、それぞれの実力に合った演習型の講義を行うこととしている。</p>							
<p>基礎医学を学ぶ重要な学年である。解剖学(肉眼解剖学及び組織解剖学)では、すべての医学の基礎となる人体の構造を学ぶ。統合生理学・病理生理学・細胞生物学・感染症学・免疫学などの基礎医学科目を学び、同時に実習が行われる。これらの科目は『人体の構造と機能』を理解する上で極めて重要なものである。多くの学生から、「臨床医学に進んで、はじめて基礎科目の重要性を認識した」との声を聞くが、限られた年限内で、これらの科目の反復履修は困難である。将来の医師としての生涯学習の土台となる基礎医学を学ぶ重要な学年であることを自覚し、基礎医学科目の徹底した修得を目指してほしい。</p> <p>行動科学Ⅱでは、医師としての生涯学習の方法や患者と医師関係の在り方などを考えるために、医療安全、コミュニケーション、カウンセリングなどについて学習する。なお第1学年に引き続き、英語に関しては、学生を能力別に30人前後の小グループに分け、それぞれの実力に合った演習型の講義を行うこととしている。</p>							
<p>前期は、前年に引き続き、薬理学、病理学Aなどの基礎医学科目が配置されている。これらの科目はすでに学んだ人体の構造と機能の上さらに「病態」の要素が加わったものであり、その知識や考え方は、医師として患者の病態機序や薬剤の作用機序などを考えるための基礎となる。さらに社会と医学を結び科目として衛生学を学習する。また、臨床系科目の学習が開始され、臨床医学総論、臨床検査医学・輸血学、消化器内科学、消化器外科学、循環器病学A・B、呼吸器内科学、内分泌・代謝内科学、神経内科学・脳卒中医学、血液内科学、腎臓内科学、呼吸器・甲状腺・乳癌外科学、産科婦人科学、小児科学、精神神経科学、泌尿器科学、皮膚科・形成外科学の各科目の講義が行われる。循環器病学は循環器内科学と心臓血管外科学を中心とし、関連する教室からの講義を組み合わせた統合型となっている。他の科目も必要に応じて教室の壁を越えて適切なテーマと講義担当者を配置している。さらに、統一した学びが必要であるとして免疫学、遺伝医学を配置している。</p>							
<p>第3学年後半から始まった臨床医学の講義が引き続き秋頃まで行われる。和漢医学概論、法医学、高齢医学、リウマチ膠原病学、小児外科学、救急医学、脳神経外科学・脳卒中医学、整形外科・リハビリテーション医学、眼科学、耳鼻咽喉科学、放射線医学・放射線腫瘍学、麻酔科学、腫瘍学、感染症学、生活習慣病学などが含まれる。また、臨床実習に備え、診断能力と基本的な臨床技能を身につけるための臨床診断学講義および実習が行われる。実習は小グループで、各テーマをローテーションで行われる。その他、臨床医学的な内容としたチュートリアル教育、必修科目としての医学英語が行われる。医学英語では、第3学年に引き続き少人数のグループで英文医学論文の講義が行われ、さらに高度な英語能力の修得を目指す。後期には臨床実習(Bed Side Learning, BSL)が開始されることとなる。臨床実習に先だって、これまでに学んだ基礎、臨床、社会医学の知識と基本的な臨床技能に関して、全国共通で行われる共用試験(コンピュータ試験CBTと基本的臨床技能試験OSCE)による評価を受ける。共用試験に合格することは臨床実習履修の要件である。臨床実習を許可されたものには、白衣式において白衣とStudent Doctorの認定証が授与される。BSLは、これまでに修得した医学知識を、実地臨床に応用する能力の育成が目的であり、ほぼ1年間にわたって小グループで各科目を順次ローテーションで行われる。なお第1~4学年で学んだ医学英語から進んで、さらに高度な英語力を身につけたいと希望する学生や、第6学年で海外でのクリニカルクラークシップ実習を希望する学生等を対象にした「英語・医学英語V」を選択科目として設定している。</p>							
<p>第5学年 M4後期に引き続き、臨床実習が主体となる。当学年では、ローテーション型のBSLの後に、学生の診療参加型実習をさらに発展させた「臨床応用実習(クリニカルクラークシップ)」が取り入れられている。「臨床応用実習(クリニカルクラークシップ)」においては、自らが担当する患者の担当医になったつもりで病歴を聴取し、課題を解決するための検討を積極的に行う。</p>							
<p>最終学年は、卒業に向けて全科目の総仕上げと、卒業臨床研修への円滑な導入のための準備に当てられる。第6学年 先ず6学年の医学知識の総まとめとなる「臨床総合演習」が行われる。「臨床応用実習(クリニカルクラークシップ)」がM5に引き続き行われ、学内もしくは学外(海外を含む)の医療機関で各4週間の実習に臨む。その後さらに、「臨床総合演習」と並んで、公衆衛生学の講義が行われる。</p>							



- 杏林大学医学部学生の到達目標
- 教育理念と学位授与の方針に基づき、杏林大学医学部の学生は、卒業までに以下の能力・態度を身につけることを目標とする。
- (1) 医師の社会的責任
 - ① 医師・医学研究者としてふさわしい価値観を身につける。
 - ② 医師・医学研究者に求められる倫理と法的責任を認識する。
 - ③ 安全な医療を行う姿勢を身につけ、そのために必要な知識、技能を修得する。
 - ④ 同僚や他の職種の人たちと協調する態度を身につける。
- (2) 医学知識と技能
 - ① 人体の正常な構造と機能を理解する。
 - ② 主要疾患の病態生理と自然歴を理解する。
 - ③ 薬物治療の原則と、個々の薬物の作用を理解する。
 - ④ 主要疾患の治療法を理解する。
 - ⑤ 心理的、社会的側面を含む適切な病歴聴取が行える。
 - ⑥ 基本的な身体診察が行える。
 - ⑦ 基本的な心肺蘇生術(basic life support)が行える。
 - ⑧ 病歴と身体診察の所見から問題点を抽出し、根拠(evidence)に基づく解決を示すことができる。
 - ⑨ 患者の問題解決のための人的資源、診断手段、治療手段、医療・保健施設、社会制度について理解する。
 - ⑩ カンファレンス、回診において適切な症例提示が行える。
 - ⑪ 適切な医療記録を作成するための基本的原理を理解する。
 - (3) 問題解決能力とリサーチマインド
 - ① 適切な情報源にアクセスして必要な情報を収集することができる。
 - ② 様々な情報源から得られた情報に基づき、科学的思考によって問題解決を図る能力を身につける。
 - ③ 批判的思考と研究的な態度を身につける。
 - ④ 基本的な医学研究のプロセス(課題・仮説の設定、研究方法の設定、調査・実験の実施、結果の考察、論文の作成)を理解する。
 - ⑤ 自律的で、適切な自己評価に基づいて生涯学び続ける態度と能力を身につける。
 - (4) コミュニケーション能力
 - ① 患者、家族、同僚、他職種のの人たちと良好な人間関係を築くための基本的なコミュニケーション能力を身につける。
 - ② 患者、家族の文化的、宗教的、個人的背景に配慮して行動できる。
 - ③ 診療・研究に必要な英語運用能力を身につける。
 - (5) 医学・医療と地域・社会との関わり
 - ① 健康状態に影響するライフスタイル、遺伝、人口統計、環境、社会、経済、心理、文化の各因子について理解する。
 - ② わが国の医療・保健制度および医療経済について理解する。
 - ③ 個人あるいは地域・圏域において健康を維持し疾病を予防する方策を示すことができる。
 - ④ 健康問題や疾病の予防について地球規模の視野に立って理解する。